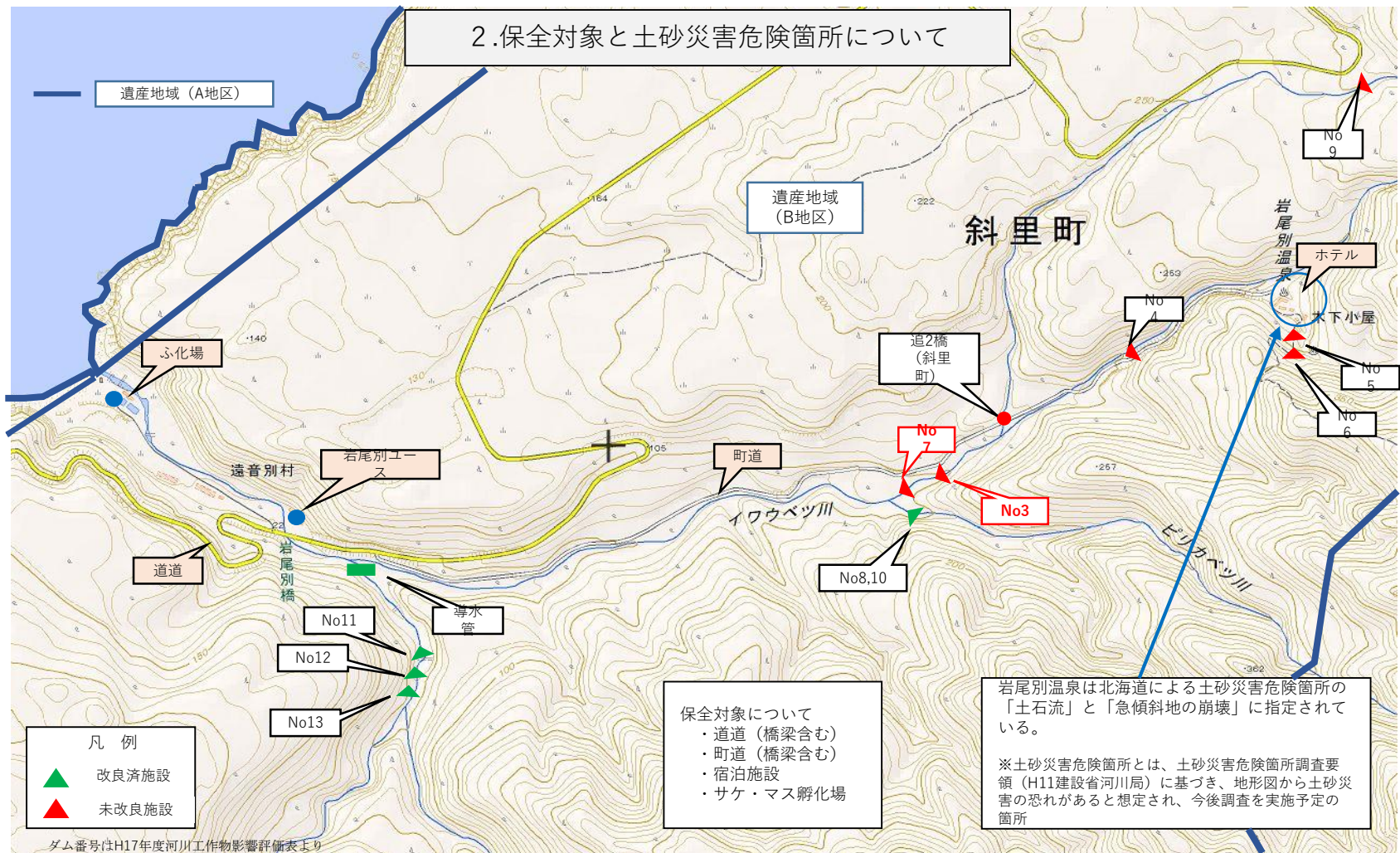


2019(R1)年度 第二回河川工作物AP会議資料
イワウベツ川No3,No7治山ダム改良検討について

1.第2次検討ダムのレビューについて

影響評価の実施(2005～2007年)		イワウベツ川				第一次検討 H17(2005)年～H19(2007)年のレビュー結果について
主項目	調査項目／評価項目	本流			盤ノ川	
		7(林)	3(林)	4(林)	追2橋(斜)	
第1次検討結果	1. 河川工作物以外の遡上、生息阻害の有無	滝(落差)	阻害なし	阻害なし	阻害なし	
		ph	阻害なし	阻害なし	阻害なし	
		主項目1の評価	阻害なし	阻害なし	阻害なし	
	2. 河川工作物が主原因か	河川工作物の落差と越流水深	遡上困難	遡上困難	遡上困難	
		プール水深と広がり	遡上可能	遡上可能	遡上可能	
		主項目2の評価	遡上困難	遡上困難	遡上困難	
	3. 上流の遡上・産卵・生息環境の有無	水面幅(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	
		水深(平水時)	環境あり	環境あり	環境あり	
		河床の組成	環境あり	環境あり	環境あり	
		河川形態	環境あり	環境あり	環境あり	
		濁水の混入の有無	なし	なし	なし	
		水温	環境あり	—	—	
		河川内の礫上のスギゴケの有無	なし	なし	あり	
		湧水	—	—	—	
		河畔林率	大	大	大	
		枝沢の有無	なし	なし	なし	
		主項目3の評価	環境あり	環境あり	環境あり	
	4. 上・下流における流出可能土砂量の状況	滞留土砂量	中	中	小	中
		土砂生産源	中	中	大	中
	5. 下流域の保全対象の状況	保全対象の重要性	高い	高い	高い	
	6. 改修に伴う河川周辺生態系への影響	産卵床の保全性	中くらい	中くらい	中くらい	中くらい
		生態系の保全性				
	その他参考事項		過去に10～15年おきに土石流が発生。昭和54、56年に激甚災害を受けている。ダム堆砂数には土石流による巨礫が過堆積している。	過去に10～15年おきに土石流が発生。昭和54、56年に激甚災害を受けている。	昭和54、56年に激甚災害を受けている。直上流には土石流による巨礫が貯留している。	
	7. 工作物改修等に伴う防災機能等への全体的な影響	専門家の意見を踏まえた総合評価	現状維持が適当	下流側の工作物(7.3)の「現状維持」と併せて考えて現状維持が適当。	下流側の工作物(7.3)の「現状維持」と併せて考えて現状維持が適当。	
第2次検討	レビュー		・支流(赤イ川、ピリカベツ川)において6基(町の1基を含む)のダム改良工事を実施 ・No.7ダム下流が河床低下 ・斜里町等が本流の下流で河川環境改善事業を実施しており、本河川の環境改善については既に地域で一定の合意がある ・土石災害防止のためにはNo7、No.3ダムは引き続き重要であるものの、上流にはNo.4ダム(本流)、No.9ダム(盤ノ川)もある ・魚道などによる改良が可能	・上流域は高水温の影響でオショロコマの生息環境が少ない ・下流のNo.7、No.3ダムのスリット化等を行う場合には、土石災害防止機能の役割がさらに大	・上流にはオショロコマが生息 ・上流での産卵環境拡大が見込まれ、かつ町道に影響を及ぼさないことを前提に、No.7とNo.3ダムの改良検討に応じた検討を行うことが可能	第二次検討 H26(2014)年のレビュー結果について
		検討結果	改良検討対象	現状維持	改良検討対象	

2.保全対象と土砂災害危険箇所について



3.S56災害以降の土砂発生源について

(出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービスより)

56災害
1981.8.4～8.6

1978(S53)

1979(S54)～
1980(S55)

1981(S56)

1982(S57)～
1986(S61)

1987(S62)

赤イ川



赤イ川



赤イ川では土砂発生源となる崩壊地は見られない。

イワウベツ・ピリカベツ上流

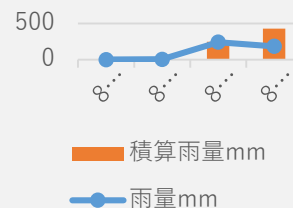


- 凡 例
- △ 56災以前の施設
 - ▲ 56災以降の施設
 - 56災以降と思われる崩壊地

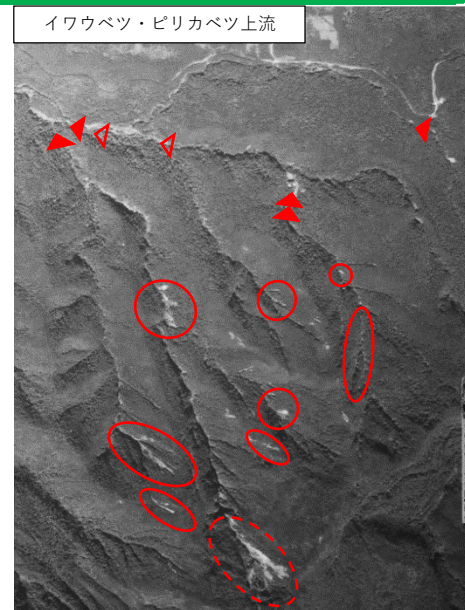
台風12号と前線の影響による大雨が発生した。
斜里町ウトロでは48時間総雨量で430mmを記録し、この大雨により岩尾別温泉や道路が被災し宿泊客等が孤立するなど、災害救助法、激甚災害法が適用される災害となった。



イワウベツ川で発生した土石流による被害状況 1981年8月



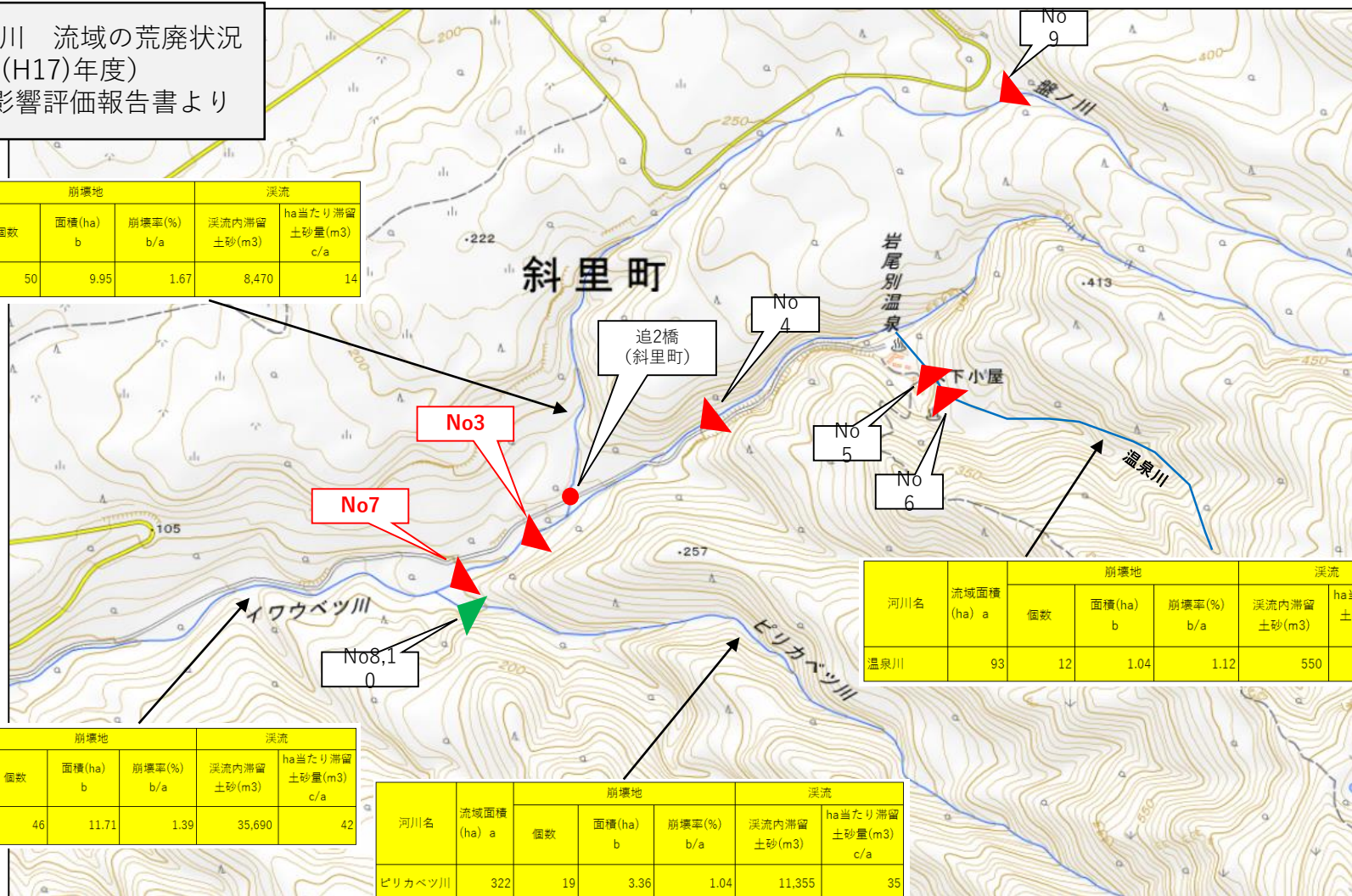
イワウベツ・ピリカベツ上流



56災害による土砂発生源はピリカベツ川合流点より上流側に多く存在する。

4.イワウベツ川 流域の荒廃状況
(2005(H17)年度)
河川工作物影響評価報告書より

河川名	流域面積 (ha) a	崩壊地			渓流	
		個数	面積(ha) b	崩壊率(%) b/a	渓流内滞留 土砂(m3)	ha当たり滞留 土砂量(m3) c/a
盤ノ川	595	50	9.95	1.67	8,470	14



河川名	流域面積 (ha) a	崩壊地			渓流	
		個数	面積(ha) b	崩壊率(%) b/a	渓流内滞留 土砂(m3)	ha当たり滞留 土砂量(m3) c/a
温泉川	93	12	1.04	1.12	550	6

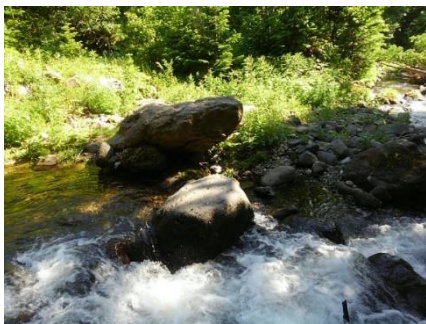
河川名	流域面積 (ha) a	崩壊地			渓流	
		個数	面積(ha) b	崩壊率(%) b/a	渓流内滞留 土砂(m3)	ha当たり滞留 土砂量(m3) c/a
イワウベツ 本流	842	46	11.71	1.39	35,690	42

河川名	流域面積 (ha) a	崩壊地			渓流	
		個数	面積(ha) b	崩壊率(%) b/a	渓流内滞留 土砂(m3)	ha当たり滞留 土砂量(m3) c/a
ピリカベツ川	322	19	3.36	1.04	11,355	35

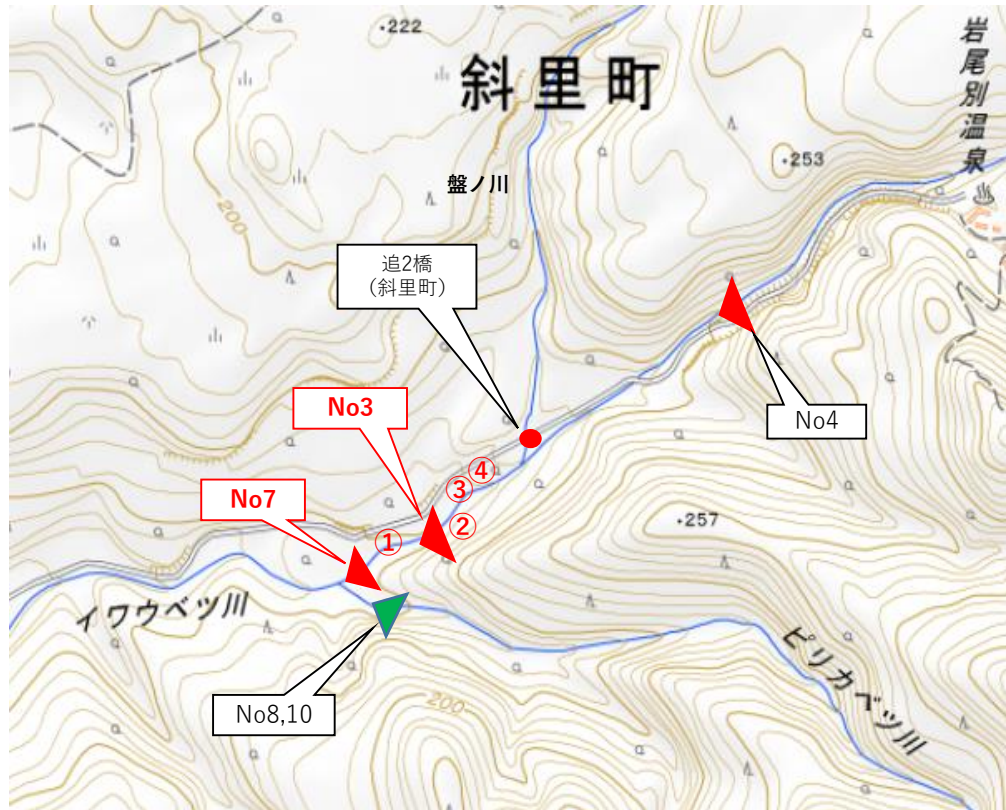
5.No7、No3ダム付近の荒廃状況について



① No7-No3区間内は、
氾級の転石が多く堆積し
ている状況。



② No3上流も、氾級の転石が不安定な状態で多く堆積。



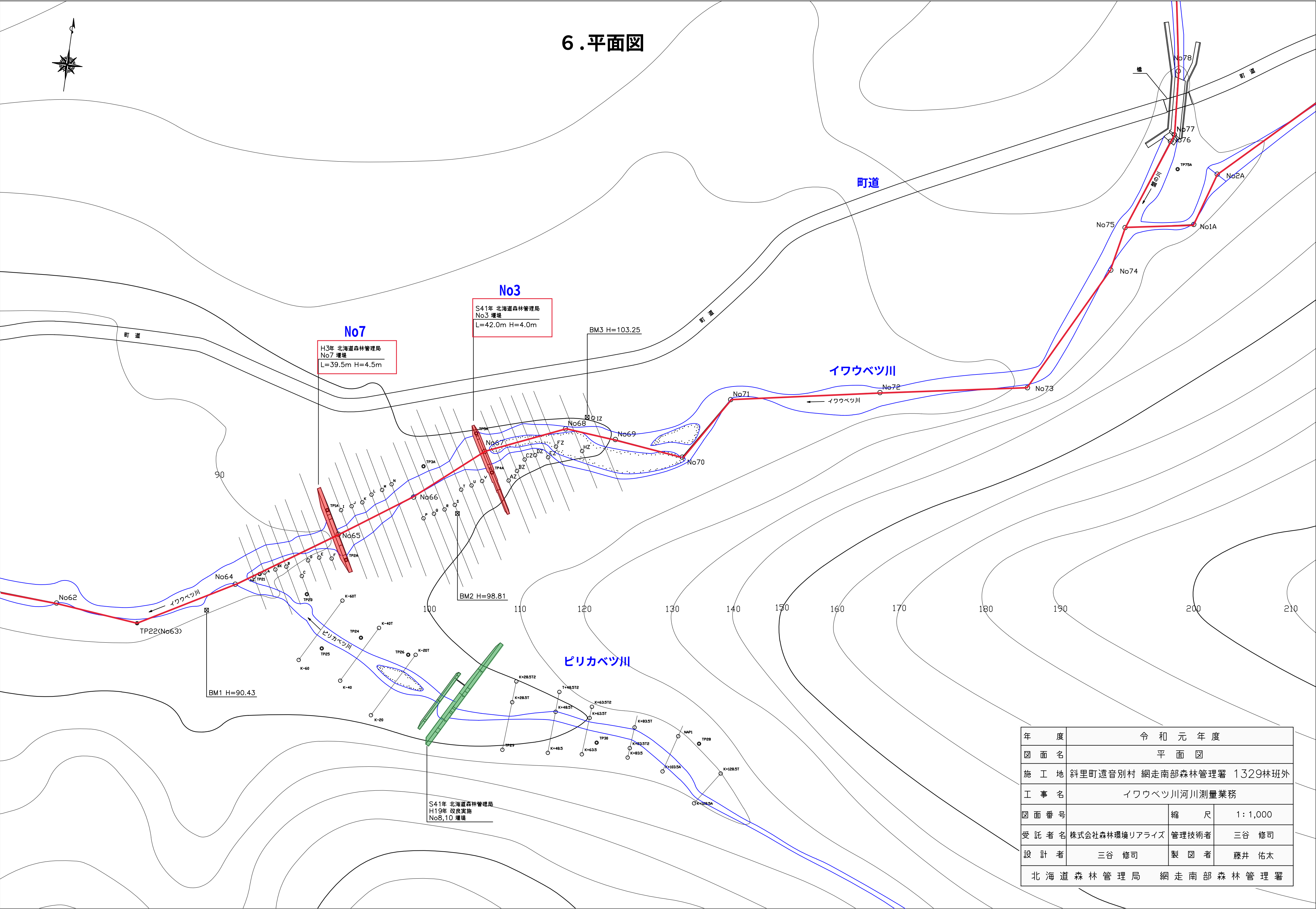
No3、No7ダムともに上流側の堆砂敷には、巨礫が不安定な状態で過堆積している状態。



③ No3上流右岸
溪岸が浸食されている
状況。



④ No3上流右岸
写真③より陸側でも、
過去の浸食等による根の
露出がみられる。



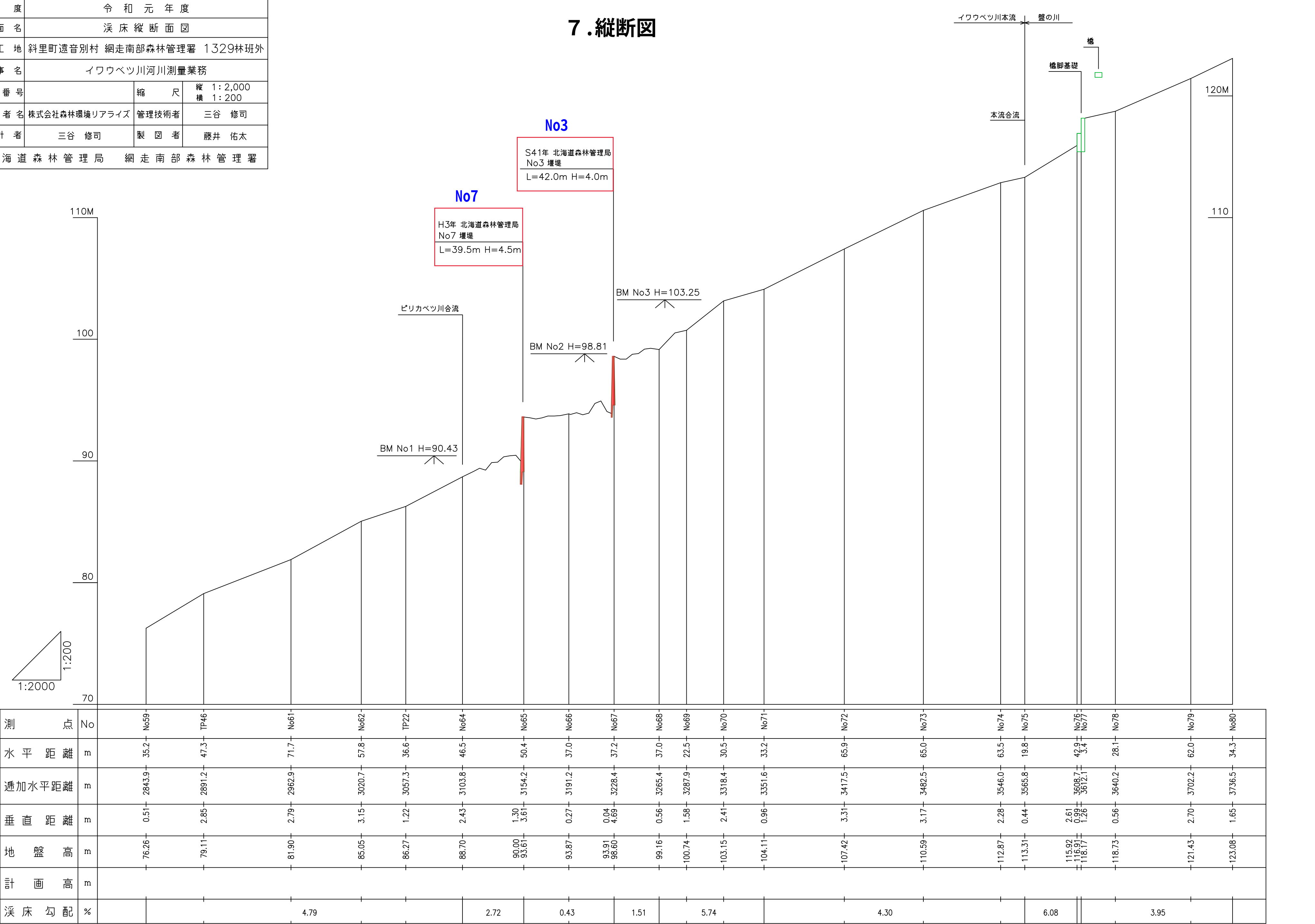
6.平面図

年 度	令 和 元 年 度		
図 面 名	平 面 図		
施 工 地	斜里町遠音別村 網走南部森林管理署 1329林班外		
工 事 名	イワウベツ川河川測量業務		
図 面 番 号		縮 尺	1：1,000
受 託 者 名	株式会社森林環境リアライズ	管理技術者	三 谷 修 司
設 計 者	三 谷 修 司	製 図 者	藤 井 佑 太
北 海 道 森 林 管 理 局 網 走 南 部 森 林 管 理 署			

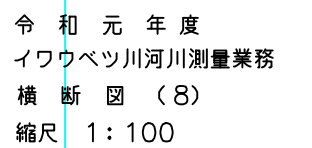
イワウベツ川No7・No3堰堤付近

年 度	令 和 元 年 度		
図 面 名	溪 床 縦 断 面 図		
施 工 地	斜里町遠音別村 網走南部森林管理署 1329林班外		
工 事 名	イワウベツ川河川測量業務		
図 面 番 号	縮 尺	縦 1：2,000 横 1：200	
受 託 者 名	株式会社森林環境リアライズ	管理技術者	三谷 修司
設 計 者	三谷 修司	製 図 者	藤井 佑太
北 海 道 森 林 管 理 局 網 走 南 部 森 林 管 理 署			

7.縦断面図



No3堰堤上流横断



10.イワウベツ川 No7 治山ダムの現状
1991(H3)年度施工



構造図

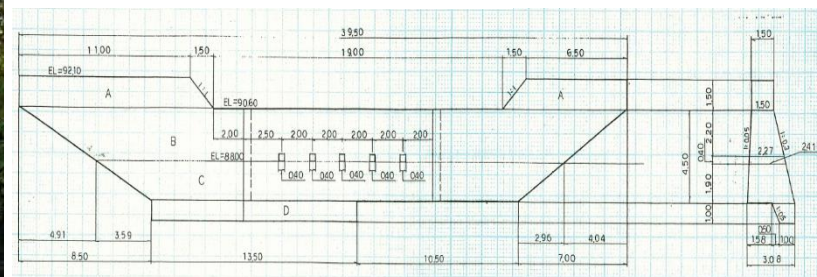
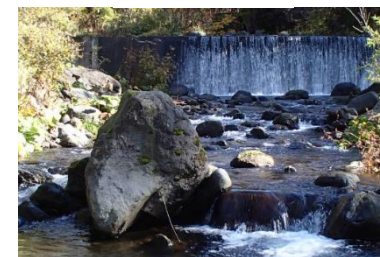


写真1



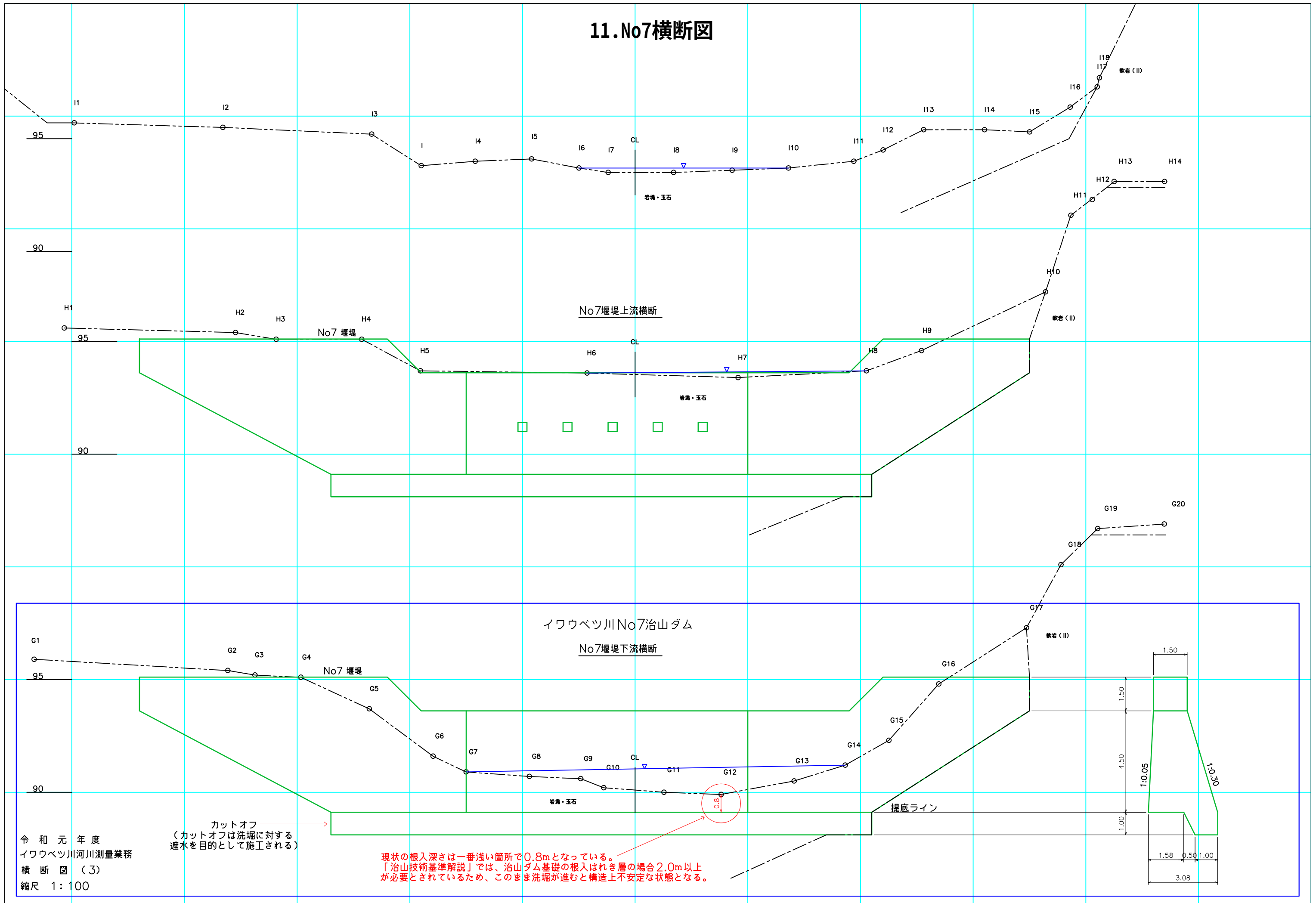
写真2



No3治山ダムとの間は満砂状態で、増水時には巨石等がNo7治山ダム下流へ流出していると思われる。(写真1, 2)

また、洗掘によりダム基礎部に根入の不足が見られた。

11.No7横断図



12.ダム改良方針決定までのスケジュール（案）

➤改良方針検討のための調査実施計画（案）

2019(R1)年度は、溪流の縦横断測量及び荒廃状況調査、保全対象の状況調査を行ってきたが、2020(R2)年度は、引き続き、残りの項目の調査を実施。

合わせて、ダム本体が老朽化していることから、適用可能な改良工法の検討に資するため、ダム施設の健全性を判断する調査を追加して実施。

これらの調査結果をもとに、ダムの改良方針を検討。

2019(R1)年度の調査項目

- ① 溪流縦断等測量・・・・・・実施済
- ② 溪流横断等測量・・・・・・実施済
- ③ 荒廃状況調査・・・・・・実施済
- ④ 保全対象等の状況調査・・・実施済

2020(R2)年度の調査項目

- ① 地形・地質・土壌等調査・・過去の調査報告書等を参照
- ② 水文調査・・・・・・・・・・過去の調査報告書等を参照
- ③ 産卵環境調査（No7ダム～盤ノ川合流点までの範囲）
- ④ **ダム施設の老朽状況調査（新規）・・No7,3ダムについて調査**
ダム本体の安定度、コンクリートの強度、亀裂等の劣化状況について調査を行うとともに、これの調査結果及び防災機能の発揮の必要性を踏まえつつ、適用可能なダム改良工法について検討

2019(R1)年度

- 第1回河川工作物AP会議で、委員による現地調査を実施
- 第2回河川工作物AP会議では、今年度調査結果を報告。

2020(R2)年度

- 第1回河川工作物AP会議において、2020(R2)年度調査の中間報告等を行う。
- 第2回河川工作物AP会議において、2020(R2)年度調査の結果報告と併せて、改良方針（案）の提案等を行う。